

The Learner

Doshisha International Academy Elementary School

January
ISSUE



January, 2022
Volume 119

DIA の今年の漢字

明けまして、おめでとうございます！

学校は4月から始まり3月で終わる「年度」で活動していますが、やはり、新年が始まる1月は心新たに清々しい気持ちになれます。子ども達も、寒い中、元気に登校を再開しました。

毎年、12月になると「今年の漢字」が話題になります。昨年(2021年)は「金」に決まりました。金メダル、金字塔など、選ばれた理由はたくさんありました。今まで選ばれたものを振り返ってみると、「偽」「災」「毒」など、ネガティブな印象を与える漢字もありますが、「愛」「新」「命」「絆」など、概ねポジティブなイメージの漢字が選ばれる傾向があると感じています。2021年の「金」は、4度目の選出だそうで、いかにめでたく、そして社会を明るい気持ちにさせる漢字なのかを物語っているようにも感じます。

さて、本校 DIA の 2021 年を振り返った時、皆さんならどの漢字を思い浮かべるでしょうか。学校という小さな世界であっても、良いことも悪いこともたくさん起こるので、それぞれの立場で、思いつく漢字は違ってくるかと思えます。それでも私は、やはり希望を感じる「夢」という字を挙げたいです。新型コロナウイルスの影響で、様々な規制がかかる生活の中でしたが、悲壮感を漂わせている子どもは学校内では見受けられません。友達との会話には、マスク越しでもわかるぐらいのはじける笑顔があります。グループワークに取り組む顔には、真剣に楽しむ鋭い視線があります。グラウンドで走り回る体には、成長するエネルギーがあります。教師として子ども達を

見ていると、その一挙手一投足がすべて彼らの未来の「夢」につながっているように見えます。ちょっとした行動にも、子ども達の夢が詰まっているようで、見ていて心が和みますし、日々、こちらが励まされ勇気づけられます。大袈裟に聞こえるかもしれませんが、教師の喜びはそのことを感じられるところにあり、子どもの成長を感じることが明日へのエネルギーになっていると言っても過言ではありません。

2021年11月19日に、DIA 創立10周年記念式典が行われました。記念誌には、在校生全員の将来の夢が掲載され、特別ゲストの元阪神タイガースピッチャーの藤川球児さんは、「叶いそうもないぐらい大きな夢を掲げよう。」と、子ども達に熱く語って下さいました。お話しの後、子ども達一人一人が、小さな希望を体の内側で燃やしているように見えました。10周年という節目の年に、自分の「夢」を再認識することができたのではないかと思います。校祖新島襄も、大志を持って物事に取り組むことを、言葉を変えて何度も訴えています。同志社人として生きる子ども達には、いつまでも「夢」を持ち続けてほしいと思います。

2021年に「夢」を感じられた DIA が、今年2022年にはどのような漢字が当てはまる学校になるのか楽しみです。夢に向かって頑張る子ども達が、「輝」「躍」などが似合う充実した実りの多い生活を送って、毎日が輝かしい日々になるように、一教員として陰から子ども達を支えていきたいと年頭に宣言致します。

学務幹事 岡田 智明



キリスト教教育

1月：信仰・信頼 January: Faith / Trust

「神は、造ったすべてのものを御覧になった。それは極めて良かった。」

(創世記1章31節 聖書協会共同訳)

以前、動物園の中にある図書館で、「聖書の中の動物たち」という本を見つけました。この本を書いたのは、あちこちの動物園で飼育員をしてこられた方で、いろいろな動物の生態に詳しいのですが、ある興味深いことを書いておられました。それは、ヘビがなかなか穏やかな動物である、ということです。

「…生まれてから一度も叩かれるなど痛い目に遭ったことのないヘビは、手を差し出してその胴中を持って大人しくぶら下がっています。ところが一度でも踏みつけられ、叩かれた経験のあるヘビですと、人が手を差し出すとさっと身構え、いわゆる鎌首をもたげた姿勢をとり、持とうとするとその手に飛びかかり咬みついてきます。平和に育ったヘビは平和な性格を持つものなのです。」

日頃私たちは「要るもの・要らないもの」、「必要なもの・邪魔なもの」を、何となくこうだと決めつけてしまっています。例えば雑草は植木の傍に生えてくると「見苦しくて邪魔」と思われ、抜かれてしまいますし、畑で作物を栽培している時に横に生えてこようものなら「作物の成長に邪魔」と見做され、当然のように抜かれてしまいます。

けれども雑草に住み着いた虫が隣の作物を食い荒らす害虫を食べてくれたり、先に雑草が固い地面に根を張ることで水はけを良くし、後から作物の根も張り易い状態にしてくれたりなど実はいいこともたくさんあって、必ずしも邪魔とは言い切れない存在です。

カラスは全身真っ黒で動物の死骸にばかり、街中ではごみ袋を食い破ったりするので人間からは嫌われやすいですが、もともと「カラスの仕事」は野生動物の死骸を片付けて綺麗にしておくことで、大自然の中では大切なお掃除係なのです。

少し話題は変わりますが、美術館や博物館などで「王家の秘宝」や「公爵家の秘宝」が展示されているのを御覧になった方も多いと思います。当代随一の職人が造った芸術作品はどれも感嘆に値するもので、宝玉類には眩いばかりの輝きがあります。

しかしながら一方で、「もしかすると宝石よりも素敵かも知れない。」と感じる色や輝きに、日常生活で出会うことがあります。例えばルビーの赤色は確かに魅力的ですが、完熟トマトの赤色も本当に綺麗です。エメラルドの緑色は人の心を惹きつけますが、川で泳ぐオス鴨の艶やかな羽の色もうっとりするような緑色ですし、コガネムシ(害虫だそうですが)の甲羅の輝く緑色といったら、まるで宝石に羽が生えて飛んでいるかのようです。サファイアの青色は神秘的ですが、よく晴れた日の青空や海の沖の方に見える波の青さも、絶品です。

神が人間に与えてくださったこの世界は、本来調和のとれた素晴らしいところです。旧約聖書創世記にもそのことが「それは極めて良かった。」という言葉で表現されています。私たちはもっともっと自然の中にある綺麗なもの、素敵なもの、不思議なものを発見し、感動する心が大切であると感じます。そうすれば暴君ではなく、賢い王のように自然を管理し、守っていくことができるでしょう。

Christian Education Committee 石川眞弓

(参考図書)

「聖書の中の動物たち」小森 厚 著；日本基督教団出版局 1992

<お知らせ>

・1月のおにぎり献金は18日(火)です。

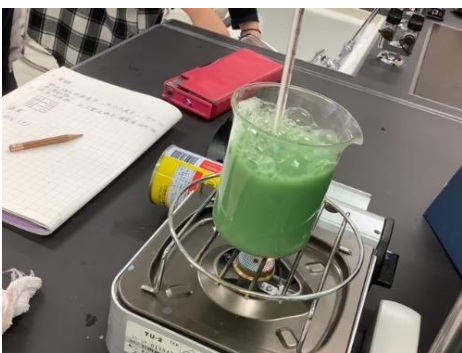


Grade 4 Unit 5 How the World Works

4年生のUOIの授業では、「人々は、物質が見せる反応に応じて、その使い方を決める。」をセントラルアイデアに、空気・水・金属の性質について学んでいます。チューニングインでは、空気を使ったアート作品を作られている奥中章人先生をお招きし、空気の性質を学ぶ出前授業をしていただきました。空気は温められると上に行くことや、音は空気によって伝わっていること、熱気球の仕組みなど、子どもたちは様々な体験をしながら学んでいきました。最後はみんなで大きな熱気球を作って飛ばして楽しみました。



ファインディングアウトでは、奥中先生に教えていただいたことを元に、疑問に思ったことを書き出し、様々な実験をしました。「空気は縮むのかな？」という疑問が出た際、確かめる方法も子どもたちで考えました。まずは、ビニール袋に空気を入れて、手で押してみることにしました。すると、「よく分からない…。」との答え。ビニール袋は柔らかく、形が変わりやすいので、手で押しても空気が縮んだのか袋の形が変わっただけなのか判断しにくかったのです。「じゃあ、形が変わらない硬い容器に空気を入れて実験しよう!」と、注射器を使って実験してみました。すると、空気が縮むことが分かりやすく確認できました。これで実験は成功!と思いきや、「本当に縮んでいるのかな?注射器の何処かから、空気が漏れているのかもしれない。」という意見が出てきました。それを調べるために、「じゃあ、空気が漏れていないか確かめる方法はあるかな?」と聞くと、ある児童が「水の中で実験をしたらいい!もし空気が漏れていたら、泡になって見えるはず。」と提案してくれました。そこでもう一度、水の中で実験してみると...、見事、空気が漏れることなく、縮んでいることが分かりました。



空気や水などの性質を学習した後は、これらの性質を利用した製品を考えていきます。例えば温度計やトースターなど、普段私たちが生活の中で目にする道具にも、実はものの性質をうまく利用した製品がたくさんあります。これらの製品がどのように機能しているのかを理解しながら、子どもたちには新たな製品を發明して行って欲しいと考えています。お友だちと意見やアイデアを出し合いながら、これからの世界に必要な製品を開発していく予定です。どんな新製品のアイデアが出るか、今からとても楽しみです。





からのおしらせ

お正月に読みたい本

あっという間に 2021 年が終わり、2022 年がやってこようとしていきます。皆さんにとって、2021 年はどんな年だったでしょうか。今年を振り返りつつ、さらに新しい年がみなさんにとって素晴らしいものとなりますようお祈りいたします。

さて、今月は「お正月に読みたい本」特集です。お正月は誰にとっても特別な時間だと思えますが、「干支」であったり「おせち料理」であったり、それらについてじっくり考える機会実は少ないかもしれません。そこで今回、DIA 図書館のお正月にまつわる本をご紹介します。

「十二支のはじまり」谷真介作 佼成出版社



皆さんは、「子、牛、寅、卯、辰…」の順番、どうしてできたと思いますか。1 番体の小さいねずみが 1 番で、いかにも足の速そうな寅が 3 番なのはどうしてでしょう。その秘密がこの本に隠されています。ぜひ、その秘密を見つけてください。

「お正月がやってくる」秋山とも子作・絵 ポプラ社



東京浅草の商店街に住むななおこさんの家では、お正月の準備で大忙し。しめ飾りを付けたり、お節料理を作ったり。下町のお正月の風情が素敵な絵とともに紹介されています。低学年、高学年ともにご家族とともに楽しめる絵本です。

「イラスト版子どもの伝統行事」谷田貝公昭監修 合同出版



こちらの本は、中学年以上にお勧めです。イラストとともに、伝統行事について説明されています。例えば節分で豆をまくのはどうしてか、詳しくはぜひこの本で確認してみてください。ご家族でイラストを楽しみながら、読んでほしい 1 冊です。

1 月の主な行事・予定

1	土	
2	日	
3	月	
4	火	
5	水	
6	木	始業礼拝 / Opening Worship Service (午前授業 / AM lessons)
7	金	
8	土	
9	日	
10	月	世人の日 / Coming of Age Day
11	火	
12	水	
13	木	
14	金	避難訓練 / Evacuation Drill, (G1・3・5 引渡し訓練)
15	土	
16	日	
17	月	
18	火	
19	水	
20	木	
21	金	
22	土	
23	日	
24	月	
25	火	
26	水	
27	木	
28	金	
29	土	
30	日	
31	月	

2 月の主な行事・予定

2/21- 授業参観・学期報告会期間 /

3/4 Open Classes & Term Report Period